

みちのく快走

今年は暖かい冬を反映してか桜前線の北上が十日ほど早い。例年では三月末に本州南岸に上陸した桜前線が一〇日ほどで白河の関を越えて“みちのく路”に入り津軽海峡に抜けるのが四月末となつて倍の三週間ほどかかる。冬枯れの野に春が芽吹く早春前線の北上から始まり桜前線が通過して新緑へ移ろう。季節の変化の速さと列島がいかに南北に長いかを最も判るのが春の季節であり、弓状列島で緯度が五〇〇キリを越える南北に長いみちのくは、列島のなかで季節の横縞模様が一番鮮やかに見える。

長いみちのくを南北に貫いている東北山形新幹線に加えて、この三月からは脊梁山脈を東西に横断した秋田新幹線が開通した。芭蕉の奥の細道の旅では、一ノ関から尾花沢、最上川ぞいに日本海へ抜けて酒田に着いたのが深川を出発してふた月半かかった。

秋田新幹線はさらに一〇〇キロほど北を盛岡から田沢湖線で西に走り雄物川沿いに秋田へのびて、東京から三時間四九分で着く。俳句さんまの足だけの旅から三〇〇年の時をへて五百分の一となつた。越後ではほくほく線が開通して上越新幹線、北陸新幹線の特急で東京―金沢間が三時間五分に短縮されて、函館―札幌の特急とほぼ同じ時間となつて日本列島が一層縮んでしまった想いが深い。

三〇年ほど前の春休みに、東北均一周遊券で周ったときは、雪の発荷峠を越え

て十和田湖を訪れ、現在ではリアス縦貫鉄道が走っている三陸海岸を久慈から宮古まで三日かけ歩き、磐越東線から釜石線や陸羽東線から山田線、花輪線、下北半島の大湊線までローカル線を十二分に堪能した。みちのくの旅をさせてもらった。その後、何度も訪れたが五能線と田沢湖線だけは乗れず仕舞で心残りとなつていた。

秋田新幹線の開通で秋田から五能線への直通が走ると聞いて、今度こそは夕日の沈む日本海を眺めてノンビリ乗ってみたいと遠く想いをはせている。ともあれ最近の雪の磐梯山や残雪の鳥海山や月山など、もっぱら中高年山歩きで尋ねる機会が多くなっているが、世界遺産に登録されている白神山をはじめ朝日連峰、飯豊の山々そして早池峰山と懐の深い自然がいまなお残っている。東京へますます近くなったとはいえず、暗さと懐の深さをもった郷愁を感じさせてくれる“みちのくらしさ”を失った時には、繰返し行きたいとは思わなくなるのだろう。

(村松 照男)